

2013年10月12日

植生学会会長  
福嶋 司 殿

植生学会の将来計画に関する答申

植生学会将来計画委員会  
委員長 吉川正人

### 将来計画策定の背景と目的

1996年に設立された植生学会は、発足以来18年にわたって植生学の基礎的・応用的研究の進歩と会員の相互交流に大きな役割を果たしてきた。特に今期（2011－2013年）は、植生学会誌のCiNiiでの公開と情報誌の充実、震災復興プロジェクトによる植生学的見地からの復興支援の取り組み、論文賞創設など表彰制度の拡充、学会事務の外部委託による運営業務の効率化、などが実現し、植生学会は新たな段階への発展期を迎えている。

しかし、その一方で、会員数は過去約10年の間、570名前後で頭打ちとなっており、将来の安定的な学会運営のためには継続的な新入会員の確保が必要である。学会誌掲載論文をCiNiiで無料公開したことや、隣接分野でも植生を扱う学会が増えてきていることから、植生学会独自の会員サービスを充実させることが重要になってきている。

また、2010年に出された「群集に関する検討ワーキング」答申でも、今後の学会活動の方向性について、群集概念の普及や若手人材育成の重要性が指摘された。大学における植生学の教育研究の場が縮小傾向にある現状では、学会がより組織的、積極的に研究成果の発信や人材育成に関する役割を担うことが求められる。

本計画は以上のような状況を鑑み、植生学の研究成果の普及と人材育成、より効率的な学会運営のために、今後2期以内の役員任期中に実現が望まれる短期的な将来計画を提案するものである。

### 植生学会の将来計画

#### 1. 研究成果の普及、発信力強化の取り組み

①「群集」の活用促進：「群集に関する検討ワーキング」答申で提案された「属性検討委員会の設置」を早期に設置し、既発表群集の属性、原記載文献の所在などを整理して一般に利用可能な形で公表する。

②植生学会誌の充実：学会として取り組んだ活動に関連する研究成果の投稿を働きかけるなどして、学会活動と連動した積極的な編集をおこなう。また、サプリメントデータの電子化などにより利用の促進をはかる。

③**一般向け書籍の刊行**：学会として取り組んだ活動など，一連のテーマに沿った研究成果を一般向けの普及書的な書籍にまとめて刊行するしくみを検討する．

## 2. 若手人材育成のための取り組み

①**トレーニングスクールの開催**：学生を対象とした学会主催のトレーニングスクールを開講し，植生学の基礎知識や調査方法，野外安全管理等について実践的な教育を行う．また研究室紹介の場としても活用し，大学院進学者の確保に努める．（2013年度試行）

②**国際学会参加者への支援**：国際植生学会（IAVS）で発表を行う大学院生や若手会員に助成を行う制度を創設し，若手が海外の研究者と交流をもつことを促進するとともに，海外の研究動向の報告の機会も設ける．

③**実務研修会等への講師派遣**：若手実務者の調査および解析技術向上のため，関連する研修会等に植生学会が積極的に関与するしくみをつくる．関連機関とも連携し，植生調査技能の資格創設も視野に入れた活動を行う．

## 3. 会員サービス向上のための取り組み

①**メーリングリストの活用**：大会等イベントの案内，各種連絡・募集などにメーリングリストを活用するための運用ルールを策定する．

②**データベースの整備・公開**：会員の研究活動の利便性を図るため，これまでに整理した文献データベースや，群集リスト等をウェブサイトで公開する．

③**広報・情報担当幹事の新設**：上記のメーリングリストやウェブサイトの管理運営のため，専任の役職として広報・情報担当幹事を新設する．

## 計画の実施に向けた体制

本計画を円滑に推進するため，会長の元に「将来計画推進チーム」を置く．